

令和元年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和2年9月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規程に基づき、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

*令和2年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期
委員	山城 晶	令和元年 7月10日～令和5年7月9日
委員（教育長職務代理者）	儀間 剛	平成28年7月10日～令和2年7月9日
委員	高江洲眞知子	平成29年7月10日～令和3年7月9日
委員	宇江城 洋一	平成30年7月10日～令和4年7月9日
教育長	吉野 剛	平成30年7月10日～令和3年7月9日

外部評価委員名簿 (五十音順)

*令和2年8月3日現在

役 職	氏 名
現久米島PTA連合会会長	吉原 昌司
現久米島西中学校学校評議員	國吉 佳代
現久米島西中学校学校評議員	平良 弘光

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「令和元年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。

(4) 評価基準日

令和2年3月31日

(5) 評価実施日

令和2年8月3日

令和元年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「令和元年度久米島町教育主要施策」を定めました。

教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

目標達成のための主要施策

学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」を育む学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、授業作りスタンダードを徹底し全校体制による「わかる授業」の構築に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	学力調査	1. 標準学力検査 * 小3～6年生、中全学年	●標準学力検査の教科総合正答率が、小学校3年生～6年生全ての学年で、前年度を－0.1～－1.9p下回っている。 ○全国学力・学習状況調査では令和元年度よりこれまでのA（基礎）B（応用）に分かれていた問題が一体的に問う形式へと変更されたため単純に比較はできないが、国算総合で全国を1.3p上回っている。 ○県学力到達度調査の平均正答率が小6算数でわずか0.6p県平均を下回ったがその他学年では全て上回っている。特に小4算数、小5国語・理科においては県平均を10p以上上回っている。小4算数では小学校6校全て県平均を上回っている。 ☆学校間差、学年間差が見られるため、各学校や学年に応じた対応が必要である。	A	A
2		2. 全国学力・学習状況調査 * 小6年生・中3年生 3. 沖縄県学力到達度調査 * 小3～6年、中1～2年	●標準学力検査の教科総合正答率が、中学校1年～3年まで、前年度を－0.3p～－1.9p下回った。 ○全国学力・学習状況調査では小学校同様、問題の形式の変更があり単純比較はできないが教科総合では全国差－1.2pであったが県と比較すると＋4.7pであり成果が見られる。 ●県到達度調査では県を上回った教科（中1数学＋2.7p、中2数学＋4.9、社会＋3.9p）が見られるものの、下回った教科（中2国語－2.5p、理科－1.7p、英語－1.7p）もあり、教科間差や学校差が見られる。 ☆各学校内の分析だけではなく教科会等を活用して学校間でも分析、情報交換を行うよう、助言する。	A	A

3	学習支援員の配置	児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。	○小学校に3名、中学校に4名の学習支援員を配置できたことで、学習未定着の児童生徒に対し、きめ細やかな学習支援を行うことができ、学習に対する意欲を高めることができた。全国学力・学習状況調査では、小学校は国算総合で全国平均を1.3p上回った。中学校は、国数総合で、1.7p上回った。	A	A
4	検定支援	1. 漢字検定 * 小学校2年生以上が実施	受検者総数 386名 合格率 71% (前年度比 +6%) 5級 (小学校修了程度) 合格者数 34名 (合格率 72%) 4級 (中学校在学程度) 合格者数 2名 (合格率 50%) ○受検者数が増え、合格率は前年度と比べ僅かに上昇した。特に小学校高学年レベルにおいては合格率が70%以上で、前年より伸びている。	B	B
5		2. 英語検定 * 中学校生全員対象	受検者総数 92名 合格率 53% (前年度比 +15%) 3級合格者数 16名 (合格率 57%)。 準2級合格者数 6名 (合格率 27%)。 2級合格者数 3名 (合格率 75%)。 ○前年に比べ、合格率が上昇している。とりわけ3級以上合格率が伸びている。 ●英語検定受検者数が減少している (-68人)。	A	B
6	地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全小中学校において各教科や領域、学校行事や地域行事等で地域人材を活用した。161時間の活用があった。 ☆活用例を更に周知し活用を促進する	B	B
	久米島町 学力向上教	1. 教職員一人一人が研究授業等を通して相互的な研修を行い、そ	○中学校区学力向上推進ブロック研修会では両中学校とともに複数の研究授業・授業研究会を実施し、全小中学校	A	A

7	職員研修会	それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。 2. 中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践化を図る。	教諭が参加した。小学校と中学校の連携や教科や学級経営等の情報交換の場にもなり、確かな学力の確立に向けた実践の共有化を図ることができた。		
---	-------	--	---	--	--

道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性を育むことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的な関わりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	担当
8	道徳・人権教育	1. 道徳の時間の指導の充実 * 指導案を作成しての研究授業の実施 2. 全教育活動を通じて、道徳性や人権意識を身に付けさせる。	○全学級において道徳の授業を1回以上公開するよう引き続き周知し実施した。 ○中学校ブロックの学力向上推進研修会では両中学校ともに道徳の研究授業を行い、小中学校合同の授業研究会では道徳の授業についてのワークショップを行い活発な意見交換ができた。 ☆町内の人材を活用した研究授業等を実施し、道徳の授業づくりや評価について研鑽を深める機会を設けたい。	A	A

たくましい心と体を育む教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
9	体力向上・健康保持増進	体力・運動能力、運動習慣等調査の実施	<p>○全国体力・運動能力等調査において小中学校ともに握力、立ち幅跳び、ボール投げ、50m 走については全国平均を概ね超えている。</p> <p>●課題であった柔軟性（上体おこし、長座体前屈）に加えて、反復横跳び、シャトルランの持久力にも低下が見られる。総合得点も全国を下回る結果となった。</p> <p>☆日常的に体力の向上や運動能力の向上に取り組むための実技研修を年度末に実施した。年間を通した取り組みを行う。</p>	B	C
10		<p>幼児児童生徒健康診断</p> <p>*健康診断の結果を、健康管理システムを活用し、健康管理に努める。</p>	<p>○公立病院、各学校との連携が取れ、体制づくりが構築できている。</p> <p>○小中の肥満傾向について、前年とほぼ横ばいである。</p> <p>○小学生の視力について、県平均を上回っている。</p> <p>●中学生の視力について、県平均を下回っている。また小中とも、視力に男女差があり女子の方が視力が低い傾向にある。</p>	A	A
11	夏休み水泳教室	<p>夏季休業期間中に、泳力の向上を図ることを目的に、B&Gプールを活用し、希望者のみ午後に開催する。</p>	<p>○初心者コース、上達コースの教室を開催し、計20名の児童が参加した。</p> <p>○水泳教室と併せ水辺の危険性やライフジャケットの使い方、浮き身等のセルフレスキューの重要性など水辺の安全教室を開催し安全啓発を行った。</p>	B	B

		●参加者が少ないため、実施の方法、日程などを検討する。		
--	--	-----------------------------	--	--

キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
12	ジョブシャドウイング 学習 職場体験学習	町内各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。	○平成24年度より続いているキャリア教育の取り組みが評価され、文部科学大臣表彰を受けた。今後も継続した取り組みを行う。 ☆令和2年度から実施される「キャリアパスポート」の取り組みと連動させた取り組みを行う。	A	A

特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
13	島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助成)	○台風や感染症拡大防止に伴う各種大会の中止もあったが、年間51回(体育会系48回・文化系3回)の大会等に参加し、延べ人数601名へ補助金を交付した。 ○一人当たりの年間派遣回数「3回以上」の割合が約半数(49%)となっており、島外活動へ参加する機会を確保できている。	A	A

国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
14	国際理解教育	1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	○昨年度に引き続き、ALTの計画的な配置を行い、生きた英語に触れる機会を作っている。同じALTが継続して配置されているため、児童生徒も慣れ親しみ、授業時間以外にも英語で会話する場面が見られた。また、久米島町の海外ホームステイ派遣事業において英語による面接実施や派遣前の英会話研修にも積極的に関わっている。	A	A
15		小学校の英語学習の助手として、1名のJET（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	○令和元年度より英語指導員を増員し、2人を町内小学校へ配置し小学校3年生以上の学年で担任とTTの授業を行っている。英語の授業だけでなく教材・教具の作成、年間カリキュラムの作成の補助など担任と連携し英語の授業に関わっている。授業時間以外にも児童に英語で話しかけ、英会話の機会を積極的に作っている。	A	A
16		国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせ	○7月31日～8月23日の日程で、アメリカワシントン州で開催されたホームステイプログラムへ3名の生徒を派遣した。 現地での生活を通して、自国とは異なった言語や生活様式を経験し関心の深まりが見られた。 ○昨年度より応募が減ったが、関心意欲や英語力の高い	A	A

	る。	生徒が集まった。 ☆生徒たちに、より関心を持ってもらうため、学校と連携をとり応募を促せるよう周知する。		
--	----	--	--	--

特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものです。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
17	教育支援委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	○医師や臨床心理士、特別支援教育に関する経験や見識を有する専門家による審議により、本人、保護者の意見を尊重し就学先を決定することができた。 ●特別な支援を要する幼児・児童・生徒は年々増加している。障がいを持った幼児・児童・生徒が特別支援教育の対象から漏れることがないように、保育所から幼稚園、幼稚園から小学校、小学校から中学校への連携がしっかり図れるよう今後も引き続き取り組んでいく必要がある。	B	A
18		特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を	○小学校 12 名、中学校 4 名の支援員を配置できたことで、学習面や生活面において特別な教育的支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた支援を行うことができた。	A	A

	特別支援教育支援員の配置	支援するために、要請に応じて小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置している。	<p>○求められる支援内容は異なるため、支援員の連絡協議会を定期的実施し、現場の課題解決及び資質向上につながるような取り組みができた。今後も継続的に実施していくとともに研修内容についても随時見直しを行っていく。</p> <p>●離島のため、支援員となる人材確保に苦慮している。</p>		
--	--------------	---	--	--	--

情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できる能力の育成をするため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
19	小・中学校 情報教育	情報活用能力を育成する為の 小中学校の情報機器の整備。	<p>○これまでタブレット端末のみだった久米島西中学校に41台の学習者用パソコン配備しICTを活用した学習の幅を広げることができた。</p> <p>○小学校の学習用大型表示装置（液晶テレビ）を13台更新し、学習環境の改善を図ることができた。</p> <p>○町内小中学校の校務用端末について「1人1台」の環境を整備することができた。</p> <p>●小学校のデジタル教科書操作端末に故障が多く、授業に支障を来すことあった。</p> <p>☆デジタル教科書操作端末については、令和3年度途中まで使用する必要があるため、予備機等の確保する。</p> <p>☆教員に対する研修等によるフォローアップ、人的支援（ICT支援員の配置）を行っていく必要がある。</p>	A	A

環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など持続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
20	環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	○ホテル館、博物館、久米島ホテルの会と連携し、全国ホテル研究大会の運営をサポートし、島内外から多くの参加者が集まり観察会を行った。ホテル館周辺での観察となったが多くのホテルを観察することができた。	A	A

生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
21	スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを中学校を中心として派遣し、生徒指導面で問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○県スクールカウンセラーの配置を生かし小中学校へ派遣した。中学校では両中学校3時間×11回、小学校は清水小学校、仲里小学校が3時間×5回、その他小学校を3時間×4回派遣し、児童生徒や教職員、保護者等のカウンセリングを行った。保護者や児童向けのミニ講話も実施するなど少ない回数ながら、効果的に活用することができた。 ●配置の時間増、同じカウンセラーを数年継続で派遣してもら	B	B

			えるよう県に要望している。 ○町スクールカウンセラーを、1日4時間を目安とし月12日、各小中学校の要請に応じ配置することができた。		
22	児童・生徒の問題行動等の把握及び関係機関等との連携	問題行動が発生した場合、問題の内容に関する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。	○アンケートを通じて問題行動を把握し、必要に応じて関係機関との情報の共有や初期対応の体制づくりに役立てることができた。 ●問題行動のある児童・生徒に対するスクールカウンセラーのニーズは高く、学校とより連携が深められるよう支援していく必要がある。	B	B

幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものです。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
23	幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里、清水幼稚園で預かり保育を実施している。	○幼稚園教諭の協力を得ながら希望する全ての園児を預かることが出来た。 ○免許を保持する預かり指導員の確保ができています。 ○預かり指導員が病気等で休んだ場合、幼稚園教諭がフォローに入っている。 ●利用人数が年々増加傾向にあり、預かり指導員の確保が課題である。	A	A
24		幼稚園にヘルパーを配置し、安全面等への配慮を行っている	○ヘルパーを希望する幼稚園に人員を配置し、支援を行った。	A	A

	る。	○よりよい保育ができるよう、教育委員会や園によるヘルパーの指導力向上のためヘルパー日誌を導入し、教諭・ヘルパー間での密な連携を確保できた。		
--	----	---	--	--

青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮し、生活体験・自然体験の機会を多く持つ中で、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
25	児童・生徒交流	<p><小学校・なかさと交流> 1月に新潟県十日町市に5年生12名を派遣、6月には本町において受け入れ交流を図る。</p>	<p>○生活環境や文化の異なる新潟県十日町市を訪問し、同市児童と交流を深めることができた。 また、参加児童が久米島代表としての自覚を持ち、訪問前の事前学習にも意欲的に取り組んでおり、訪問先でも堂々と発表することができ、先方からの評価も高かった。 ☆夏の学校交流の持ち方について、十日町市の引率者5名で6校を回れないので、学校交流の持ち方についての検討が必要になる。 ☆夏の学校交流は、各中学校区で会場校を持ち回りで実施する。</p>	A	A
26		<p><中学校・佐賀市交流> 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市か</p>	<p>○事前学習を行い久米島について学び、交流の際にしっかり説明できた。 ○施設見学、体験学習を通して異なる文化や歴史、自然、</p>	A	A

		らの中学生を受け入れ交流を図る。	<p>気候を知り佐賀市中学生との交流を深めた。</p> <p>●集合時間に遅れるなどスケジュール管理に課題が残ったため指導を徹底する。</p>		
27	夏休みものづくり体験教室	夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。	<p>○身近にある木の実や貝殻、段ボールなどの素材を活用し、家庭でも簡単にできるものづくり教室を開催した。(ホバークラフト、モビール、小物作り、フォトフレーム、ビーズ教室)</p> <p>○各ブース 4、5 回に分けて開催し、参加者はいくつかのブースに参加することができた。</p> <p>●低学年の児童にとって難易度の高いものは簡略化し、作ることができる工夫が必要である。</p>	A	A
28	母の日プレゼント教室	いつも家族をお世話をしてくれるお母さんに、感謝の気持ちを込めて手作りのプレゼントをつくる。	○幼、小、中学生 35 名が参加し、久米島に自生する植物からできた染料でバンダナやストールを色づけし、紬がどのように染められ作られているのか学ぶことができた。	A	A
29	父の日プレゼント教室	いつも家族のために頑張ってくれるお父さんに、む「ありがとう」の気持ちを込めて手作りのプレゼントをつくる。	○小学生 24 名が参加し、久米島紬でコースターを作り、久米島の伝統工芸に触れる機会となった。また、染色の方法、織り方など久米島紬について学ぶことができた。	A	A
30	ヤングフェスティバル	子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。	<p>○12 団体、約 140 名の幼児・児童・生徒が参加し、日頃の練習の成果を発表することができた。</p> <p>○最後まで観客が残るような工夫として、プログラムの最後に出演者全員参加型の演目を実施した。多くの観客が最後まで出演者に声援を送ってくれた。</p> <p>●久米島高校の生徒に運営を依頼したが、テスト前で協</p>	B	B

		* 唄・三線、舞踊、ピアノ、空手、伝統芸能等	力が得られなかったので、開催日の調整が必要である。 ●出演者全員参加の演目の打ち合わせ、リハーサルを全団体が参加して行うことが困難なため、検討が必要である。 ●昨年よりも2団体少なかったが、終了時間は変わらなかったため、各団体の持ち時間の厳守を徹底させる。		
31	久米島町 子ども読書 まつり	本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。	○沖縄県子どもの本研究会と町内ボランティアによる絵本の読み聞かせ会や本の販売を行った。「ブックスタート」体験コーナーを設け、絵本を通してのふれあい、コミュニケーションを親子で楽しんでもらった。 ●未就学児を連れた親子の利用者は多かったが、中、高校生の利用者が少なかった。町広報誌やラジオ広報以外の効果的な周知方法がないか、中、高校生も参加し、楽しめる読書イベントが企画できないかを検討したい。	B	B
32	久米島現代版 組踊り	地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。 ＜久米島公演＞ 令和元年11月30日開催 観客：363名＜昼公演＞ 観客：409名＜夜公演＞	○7年目となり、島内各イベントをはじめ島外からも参加するイベントへの出演も増加し観光資源としての需要も高まっている。 ○久米島公演では2回の公演で772名の来場者があり舞台を通して久米島の歴史を発信することができた。 ○自主運営に向けた計画の策定を行い次年度から着手する。	A	A

社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
33	久米島町 新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○島内の小中学生から 486 点、一般、高校生から 25 点の応募があった。児童生徒の作品数が増加し、特別審査員から作品の質も向上しているとある。 ○展覧会時に特別審査員より作品講評の時間を設け、小中高生が指導を受けることができた。 ●一般の部では、高校生が出展数を伸ばしているものの一般の応募は少ない。	A	A
34	放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境づくりを目的として開催している。	○放課後や週末に学校施設等を利用して子ども達の活動拠点を設け、安全で安心できる「放課後子ども教室」が多く地域・保護者の方々協力の下、開催できている。 【5 小学校で 11 教室（学習支援 4、スポーツ活動 7）】 ●学習支援教室未実施の小学校（2 校）については、家庭学習の習慣定着のため、早期実施を目指し引き続き協議していく必要がある。	B	B

スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密

にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
35	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	○台風の襲来に備え予備日を設けた。当日は天候に恵まれ2年ぶりに開催することができ、町民多数の参加で大いに盛り上がり、町民が親睦が深めた。	A	B
36	学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	○学校体育施設を2校(久米島西中・球美中)を解放し、スポーツのできる環境の提供を行い健康増進を図っている。 ●利用団体数が伸びず、学校体育施設利用について広報が必要である。	B	A
37	B & G 海洋センタープールの開放	B & G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあい及び学校授業で活用している。	○小学校3校、幼稚園、保育園が水泳授業、園外保育で活用した。 ●子どもたちの利用が減少しており水泳教室以外の水に親しむイベント開催が必要である。	B	B

教室環境の整備

小中学校の普通教室にクーラーを設置することで、児童生徒が夏の時期でも快適に授業を受けることができる環境を整備する。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
38	空調設備の設置	全小中学校の普通教室にクーラーを設置する。	○小中学校の全ての普通教室及び一部の特別教室へ空調設備を設置し、学習環境の改善を図ることができた。 ●本事業で設置した空調設備のランニングコストについて、整理する必要がある。	A	A

生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうという学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
39	三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○全 18 回の教室を開催し、三線を基礎から学び沖縄の伝統芸能、文化に親しむ機会となった。 ● 19 名の受講者から修了者が 6 名と少なかった。つまりきのある受講者へのサポートが必要である	B	B
40	移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。 * 2 回実施	○ 6 月と 11 月の 2 回開催され、第 1 回移動図書館では 175 人の町民が利用（貸出冊数 1, 557 冊）、第 2 回は 153 人の町民が利用（貸出冊数 1, 349 冊）した。移動図書館を通して、町民へ読書の機会の提供を行うことができた。 ● 目の不自由な人への「大活字図書」「点字図書」等もリクエストし、読み弱者への支援もできるとよかった。	A	A
41	電子図書館	内閣府と連携し、図書館や本屋がないなど情報格差が大きく、読書機会が少ない沖縄県の離島地域の課題解決につなげるため、電子図書館を使った実証実験（3 ヶ年）を実施する。	○具志川農村環境改善センター図書室の閉室や新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休校により、読書の機会が少なくなったため、自宅にいながらいつでもどこでも利用できる電子図書館の重要性が増した。 ●令和元年度末の利用登録者数が 356 人で、前年度より 70 名増に留まった。広報活動に比して利用者が伸び悩んでいるため、地域のニーズに合ったコンテンツの充実に努める。	B	B

学校給食の推進

学校給食は、教育活動の一環として位置付けられ、バランスの取れた豊かな食事を通して、児童生徒の健康増進、体位の向上及び正しい食習慣を図るとともに食事をすることで相互間の心のふれあい、好ましい人間関係の育成の場として、社会性を養うことを目的に取り組んでいる。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
42	給食センター運営	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>○各小中学校からの要望により、保護者の給食試食会及び食育講話、町内各小中学校全学級に学活や家庭科、給食時間を利用し「食に関する指導」の授業が実施できた。</p> <p>○地元産海洋深層水栽培野菜、海産物（モズク、アーサ）、紅イモを使った地元産デザートなど地場産物を活用した給食の提供ができた。</p> <p>○学校給食用牛乳の保管冷蔵庫を学校給食センター敷地内に設置し、各小中学校への配送ができる体制が整った。</p> <p>●老朽化している施設の移転計画（特に用地取得）の策定。</p> <p>☆公共施設等総合管理計画において、学校給食センターは移転更新となり、「具志川庁舎周辺土地利用計画検討委員会」で配置計画を決定し、町長への答申があり、答申に沿い地権者と用地交渉中。引き続き移転建替計画を進める。</p>	B	B

文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民

俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
43	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	<p>○博物館機能強化事業を予定通り実施、照明 LED 化、空調設備の省エネ化を完了した。実証事業であることから今後 3 年間、実績データの提供を行う。</p> <p>○害虫・カビ対策として全館燻蒸を実施した。</p> <p>●資料データ化前段の業務として、民俗資料の配架作業を行ったが、ラベルが消失している資料もあるため、今後確認に時間を要する</p>	B	B
44	具志川城跡 保存修理・整備	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため調査を実施し、城跡を修復する。	<p>○三の郭崩落箇所のボーリング調査を実施し、岩盤が存在しない事が判明した。修復に際しては石積みを積み上げるための工法を検討するという方向性がはっきりした。</p> <p>●委員会で判断を見送られた箇所が、令和元年度に新たに崩落。平成 30 年に崩落した箇所と共に修復工事を要し、これには複数年要する見込みである。</p> <p>●平成 29 年度以前に発掘したトレンチが記録されなかったので、速やかな記録が必要。</p>	B	B
45	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	<p>○予定していた編集委員会以外に、専門部会を適宜開催し、計画的に編集作業を実施できた。</p> <p>○令和 2 年度刊行予定の資料編 1 について、著作権等の課題に取り組めた。</p> <p>○令和 3 年度刊行予定の通史編 II について、資料収集、関係課との調整を行うことができた。</p> <p>☆専門の先生方から意見を頂き、町史編集へ反映させる。</p> <p>●令和 2 年度刊行を目指し、印刷業務など印刷会社との</p>	B	B

			契約等、適正な実施。		
46	文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	<p>○久米の五枝のマツを保護する防風林育成のためにフクギを植樹した。</p> <p>○石垣に取りついた樹木の除根と敷地内の樹木の剪定を行い、保護と美観維持に努めた。</p> <p>○チュラフクギの剪定と施肥を行い、美観と樹勢の維持に努めた。</p> <p>○国指定「上江洲家住宅」の防火対策のため、消火栓修理・屋内スプリンクラー設置に向けた取組（補助事業申請）を行った。</p> <p>●県指定「宇根の大ソテツ」の一部が平成 29 年度末に壊死を起こしていたため腐朽部分を切除した。</p> <p>●国指定「久米の五枝のマツ」がシロアリの食害を受けて大枝を 1 本失う。今後も注意深い管理が必要</p> <p>●国指定「宇江城城跡」一の郭が台風により崩落。次年度以降の復旧のための設計を行う。</p>	B	B

教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。令和元年度は16回(総合教育会議、臨時会を含む)開催しました。

(2) 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会 (3回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (令和元年5月)

沖縄県市町村教育委員会総会・研修会、那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (令和元年10月)

市町村教育委員会教育委員・教育長研修会 (令和2年2月)

○その他活動状況 (各種行事等への出席)

年度	月	行 事 名
R 1	4	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
	4	新任教職員歓迎会
	5	久米島PTA連合会定期総会
	5	小中学校学校訪問 (6小学校、2中学校)
	6	西中ブロック学力向上推進研修会
	6	球美中ブロック学力向上推進研修会
	6	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会 (9月)
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	久米島PTA連合会研修

	9	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	10	久米島地区中学校意見発表大会
	11	久米島地区小学校童話・お話大会
	11	中学校合唱コンクール
	11	小中学校学校訪問（6小学校、2中学校）
	12	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
R 2	1	町新年会
	1	町成人式
	1	久米島町新春書道展
	2	なかさと交流報告会
	2	町ヤングフェスティバル
	3	小・中・高卒業式

《外部評価委員の意見》

【検定支援】

受検者数が増え、合格率も前年度と比べ上昇したことは成果であり評価をAにしたいところだが、各学年に相当する級の合格率が平均71%と言う数字は合格ラインとは考えるが、目標を十分達成できたとは言えないのでBとします。

【久米島町学力向上教職員研修会】

予算補助の上限時間を使用できた学校とできなかった学校がある理由は、児童生徒数が関係すると思うのだが、他に地域人材の情報不足していることもあるのではないかと。教職員は、地域行事等を通して、地域にどんな人材がいるか情報収集をすることも大事。また、各学校でも、人事異動のある年度末にはしっかりと地域の人材活用等について引き継ぎをしておくことも必要。

【体力・運動能力、運動習慣等調査の実施】

小中学校の男女ともに握力、ボール投げなど、全国平均値を超えている種目はあるものの、総合得点では、小学校の男子を除き、小学校女子、中学校男女で全国平均得点を下回っているため、評価はCの方が妥当である。中でも、上体おこしや長座体前屈については、毎年全国を下回っているため改善の努力が必要。学校だけでなく、家庭でも楽しくできるストレッチや運動等ができないか工夫してほしい。島の子どもたちの身体能力は高いので、課題を克服すると相乗効果で、他種目の得点の向上も期待できると思う。

【キャリア教育】

久米島町のキャリア教育の取り組みは素晴らしい。島にも色々な仕事があることや、またその仕事内容を体験できる機会が小学校の低学年からあることは、子どもたちは大変幸せなことだと思う。是非、今後もこの取り組みを継続してもらいたい。

【教育支援委員会】

いくつか課題はあるものの、特別な教育的支援が必要な子どもたちに対して、特別支援教育に関する経験や見識を有する委員の皆さんが行動観察や諸検査等を通して、時間をかけて慎重に審議し、適切な就学先を判断するために努力されてすることは、素晴らしいことだと思うので、評価はAにしたい。

【夏休みものづくり教室】

外部講師を頼まず、教育委員会の職員だけで各教室の講師となりイベントを実施できたことは素晴らしいことである。だが、もっと地域の専門家を活用して、より専門的な指導の下で子どもたちにもものづくりを体験させることがあってよいのではないかと。

【久米島現代版組踊り】

高校生の参加が減少していく中で、小学生の参加者が激増したことや男子が加わったことは大変良いことである。また、中学へ進学しても、組踊りを継続して活動してもらいたい。今後は、一括交付金の活用ができなくなった場合も想定されることから、自主運営に向けた活動の工夫や努力を続けてほしい。

【放課後子ども教室】

放課後の部活動が、小学生の居場所の一つとなっていることは喜ばしいことである。また、各スポーツ教室（小学校の運動部）の指導をされている地域の方々には、頭が下がる。しかしながら、各チームの指導者の指導方針や活動の在り方については、各監督が決めているようで、活動日や活動時間、活動内容等がそれぞれ違っている。教育委員会から、各指導者に、小学校の運動部の在り方等について共通確認をしてほしい。

【学校施設の開放】

学校体育施設の開放については、町内の地域のバランスや施設の状態等を配慮しながら、現在は2校（久米島西中・球美中）での実施となっており、利用団体数も利用者数も若干減少してはいるものの、利用者にとっては楽しく活動できる貴重な場となっている。利用者数だけで評価するのではなく、利用者の期待に応えているかで判断したい。評価はAとしたい。

【町民運動会】

久々に天候に恵まれ、町民多数の参加で大いに盛り上がった運動会になって良かった。ただ、どの種目も、毎年同じ種目ということもあり、毎年同じ選手が出場しているように思える。もっと色々な人が参加できるように、種目の見直し（特に婦人100m）や工夫を求めたい。よって評価はBにしたい。

《総括》

学力については、小学校も中学校も大変頑張っている。小学校は全国学力学習状況調査や県学力到達度調査においても、全国や県と比較しても大変良い結果である。また、中学校も全国学力学習状況調査において、県平均を大きく上回っていることは、とても素晴らしいことであり、島の子どもの学力が向上してきていると感じている。さらなる向上をめざしてほしい。

教育委員会の事務・事業等については、取り組み内容が多種・多様で業務量も多いかと思うが、事業実施に当たっては内部で十分に検討し、見通しを持って計画的に取り組んでほしい。

今回の評価・意見が今後の教育委員会の取り組みに生かされることを期待します。